

令和3年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取り組み	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
1 授業実践力の向上 (授業改善)	研究授業整理会では、良かった点、改善点について分かりやすく表にまとめる。全職員が授業シートを記入した授業を行い、ミニ授業報告会を行う。多くの事例を共有し合うことで授業改善につなげる。	教務課	授業改善に取り組めた教員の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	アンケートの結果「取り組めた」の合計が17人中16人、94パーセントであった。	昨年度に続き今年度も、研究授業前に学部研究会・学部を交えたグループ研究会の2つの授業検討の機会を設け、学校全体で授業改善に向かう体制を作ることができた。その結果、多様な視点から授業を研究できたことが成果と考えられる。全職員が一人2回授業伝える力を育むための工夫をとり入れたシートを作成し研究授業に取り組み、学部で全教科の授業研究が行われるよう計画し、授業実践を教員間で共有、全体の授業改善を図っている。 後期は授業改善に取り組んだ教員の割合100%を目指し、全教員に「伝える力」を育む視点を持って日々の授業に臨んでもらえるよう啓発していきたい	A
2 組織的・系統的なキャリア教育	保護者がわが子の高等部卒業後の姿を早い段階から意識できるような情報を各学部からも提供する。	進路指導課 各学部	アンケートの結果「とても参考になった」「まあまあ参考になった」の合計の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	アンケートの結果「とても参考になった」「まあまあ参考になった」の合計の割合が 1とても参考になった 11人 2まあまあ参考になった 11人 3あまり参考にならなかった 3人 4参考にならなかった 0人 H3. 10. 10 現在の集計	今年度も、組織的・系統的なキャリア教育として、保護者の方に早期から児童生徒の将来について見通しをもっていただくために、「キャリア通信 轍(わだち)」を発行している。これまでに「高等部卒業後の進路状況」「職業準備性ピラミッド」「就労アセスメント」「技能検定」「雇用促進セミナー」などについて情報提供ができた。この通信に関する保護者アンケートでは「とても参考になった」「まあまあ参考になった」を合わせて88%となっている。今後は保護者からの要望があった、福祉制度や奥能登の入所施設など、また、療育手帳Aの児童生徒の進路に関わる情報についても発行していきたい。	B
3 安心・安全な学校づくり	避難訓練、交通安全教室など安心・安全な学校づくりのための取り組み内容をWebページや生徒指導通信で複数回発信する。その際実際に生じる課題解決を想定した情報を加味した形で発信する。	生徒指導課	安心・安全に関する情報をテーマ別に深めた内容を加味して発信した回数 A：4回以上 B：3回以上 C：2回以上 D：2回未満	避難訓練、交通安全教室など安心・安全な学校づくりのための取り組み内容をWebページで4回、生徒指導通信で前期の取り組みを発信した。	防災避難や防犯、交通安全等の訓練、薬物乱用防止教室などを開催することができた。児童生徒への意識付けができたと考えている。また、災害時に特別支援学校に通う児童生徒が避難する福祉避難所について各自自治体に問い合わせ確認する等、前年度より踏み込んだ情報提供を行うことが出来た。さらに役立つ情報を伝えていきたい。	A
4 業務の効率化	教員一人一人が校務分掌の業務の内容とその課題を把握し、業務の効率化を目指して取り組みを進める。	全職員	各自の校務分掌の課題を把握し見直しや整理に取り組んだ教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	アンケートの結果「取り組めた」、「まあまあ取り組めた」の合計が20人中15人、75%であった。	業務の改善に向けた取組を進めて4年目であり、一人一人が前例にとらわれず効率的な業務を目指している。 一方で年間の時間外勤務時間の平均は令和3年度は9月までの平均では23.6時間で令和2年度の平均時間24.5時間に比べ減少はしているものの、極わずかである。業務の効率化が時間外勤務時間の着実な減少につながるような取組を更に進めていく必要がある。	B